



▲4人が順番に質問するグループ



▲元気に、そして堂々と質問をしました



▲真剣な表情で答弁に耳を傾ける子ども議員



▲質問は、図やイラストを使って分かりやすく説明



柔軟で新たな提案次々と

きたあきた子ども議会

北秋田市として初めての小学生による子ども議会が8月8日、議事堂で開かれ、26人の子ども議員がまちづくりに対する新たな提案をしました。

子ども議会は、次世代を担う子どもたちが政治や市の課題に関心を持ち理解を深めるとともに、自分の考えを積極的に発言できる子どもの育成を目的に開催されました。

小学生による議事進行と一般質問

子ども議員には、市内13校から6年生2人ずつが選ばれ、事前研修で議会の仕組みや議員の役割、市の行政について学習し、議長団、市民生活・観光・産業、教育・スポーツ、健康・福祉のグループに分かれて、議事の進め方、質問書や説明資料などを作成して議会に臨みました。

市当局からは、通常の市議会と同様に、津谷市長、虻川副市長、工藤副市長、三澤教育長を始め部長や担当課長が出席。

議会では、議長団による開会宣言、経過報告に続き、「ルールを守り、いじめをなくす活動に進んで取り組みます」など5項目からなる「北あきた子ども議会宣言」が議長団から提案され全会一致で採択しました。

一般質問では、4つのグループが7項目にわたり、提案理由を説明するとともに、図やイラストを使いながら分かりやすく質問しました。

伊勢堂岱遺跡に縄文ランドの建設を

伊勢堂岱遺跡に関する質問では「世界遺産登録になったら間違いなく多くの人がやってきます。遺跡と展示館だけでは、最初は多くの人が来てもやがて少なくなっていくと思います。周辺に様々な施設を作り、縄文ランドにはどうでしょうか」と提案。

津谷市長は「皆さんの力で新しい伊勢堂岱遺跡の活用を描いていただき、これまで実施したことのある土器づくりや縄文パン作り体験のほか、提案のあった発掘体験や生活体験などを取り上げながら、一緒に意見を出し合って進めてまいりたいと思います」と答弁しました。

スポーツイベントにスタンプラリーの導入を

スポーツイベントに関する質問では「市では様々なスポーツイベントが行われていますが、スタンプラリーのようにして、多くのイベント

に参加する工夫をすることはできないでしょうか」と提案。これに対し三澤教育長が「多くの市民がスポーツに親しむことにより、地域の活性化と健康づくりに繋がるスタンプラリー方式は良い考えだと思います。スタンプラリー方式には、個人のスタンプ数を競う個人戦と、家族の合計や地域でのスタンプ数を競う団体戦なども考えられるため、とてもおもしろいアイデアだと思います。来年は、スタンプラリー方式を用いて、チャレンジデーで勝ちたいと思います」と答弁しました。

古い校舎は少しでも早く新築を

さらに学校の校舎に関して「古い校舎では、雨漏りがあったり、遊具が壊れていたり、不便な思いをしながら過ごしている子どもがいます。少しでも早く新しい校舎で快適に過ごせるようにできないでしょうか」と質問。三澤教育長が「古い校舎でも、様々な故障があったりして不便な思いをさせていることは大変申し訳なく思っています。故障の修理などは、今まで通りできるだけ素早くやっていくことを約束します。学校の新築には10億から20億円位かかりますので計画的に建てるようにしています。古い校舎には、お父さん

お母さん、先輩、地域の皆さんたちの思いがこもっていることを忘れないで、大切に使用してほしいと思います」と答弁しました。

議会での経験を学校生活や自分の生き方に活かしたい

閉会にあたり、議長団を務めた松岡優奈さん（合川小）が「議会に参加できたことは貴重な経験となりました。市の行政の内容や議会の仕組みなどについて知ることができたと、市の未来について考える機会を頂いたことなど、大変勉強になりました。経験や勉強したことを学校生活にも生かしていきたい」と子ども議会を代表してあいさつしました。

閉会行事では、子ども議員が感想発表を行い、最後に佐藤吉次郎市議長が「どのグループも、現在当市が抱えているそれぞれの懸案事項について、要点をついた鋭い質問内容であったと思います。それにもまして、提案理由を見ると、これを実現することにより、このようなメリットがあるという提言を述べており、素晴らしい質問であったと思います」と講評を述べました。

傍聴席は、子ども議員の頑張る姿を一目見ようと、保護者や教員、議員などで満席となりました。